

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和4年7月31日現在）

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■指導農業士 夏季研修会開催～県農政部長との意見交換及び認定証交付～

7月8日、指導農業士会飛騨支部主催の「夏季経営研修会」が開催され指導農業士のほか、岐阜県農政部長や市、JAひだなど関係機関計37名が参加した。

研修会では、会員3名（酪農、トマト、果樹）の農場を視察した後、室内にて雨宮農政部長の講演を受けて飛騨地域の農業振興に向けた意見交換を行った。

また、今年度新たに指導農業士に認定された3名に対して、雨宮農政部長から認定証が渡され各々が決意を述べた。

農業普及課では、今後も指導農業士活動の支援を行い、経営能力の向上や組織強化による産地の維持・発展及び新規担い手の育成を図っていく。



【雨宮農政部長の講演】

■青年農業士 認定証授与式及び現地ほ場見学研修会を開催

7月5日、今年度新たに認定された青年農業士4名に対して、認定証授与式を開催した。当日は3名が出席し、上口飛騨農林事務所長から授与の後、経営概要や将来の展望、行政への要望など意見交換を行った。

また、7月6日には、青年農業士連絡協議会飛騨支部主催による「現地ほ場見学研修会」を開催し、高山市内のトマト生産者ほ場や美女餅工房、植物工場を見学し、経営者から話を聞いた。日頃忙しく、栽培中のほ場や植物工場を見る機会も少なく、見学先では活発な質問がされた。

今後も農業普及課では、青年農業士の活動支援し、地域農業のリーダー育成に取り組む。



【青年農業士認定証を授与】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■朝市直売 飛騨地域朝市連合総会及び研修会を開催

飛騨地域朝市連合は、管内にある18の朝市・直売所で構成され、農業普及課が事務局となって、研修会や情報交換を行っている。

7月12日、新型コロナで見合わせていた対面での総会を3年ぶりに開催した。

総会後の研修会では、飛騨保健所から新たに施行された食品衛生法における営業届出について説明を受けた。併せて、お互いの近況報告を行い、新型コロナ等の影響で観光客が減ったなどの影響は少なからずあるが、野菜の品目数を増やしたり、地元へのPRなど集客のために各直売所で様々な工夫をしていることなどを情報共有した。

農業普及課では、今後も研修会などを通して、飛騨地域朝市連合の活動を支援していく。

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■果樹 飛騨桃統一目揃え会を開催

7月21日、JAひだ果実出荷組合協議会では、飛騨桃の本格的な出荷を間近に控え「飛騨桃統一目揃え会」を開催した。

目揃え会では、市場4社の担当者から他産地の出荷状況等情勢が報告され、その後、実物の桃を手に取りながら熟度や着色について、出



【統一目揃え会の様子】

席者全員で目揃えを行い、出荷基準や出荷要領について確認した。

農業普及課からは、今年の気象推移や桃の生育状況、病害虫の発生状況について情報提供するとともに、今後の薬剤防除の注意点等も説明した。

今後も関係機関と連携しながら、農業普及課は栽培技術情報の提供や気象データの収集、病害虫防除暦の作成など管内の果樹生産者を支援する。

■夏秋トマト 環境データを利用し灰色かび病リスクに応じた耕種的防除

農業普及課では、令和3年度から国の「データ駆動型農業の実践・展開支援事業」により、環境モニタリング装置の温湿度データを基に灰色かび病の発生予測に取り組んでいる。

令和3年度の結果から、夏秋トマトの栽培環境は灰色かび病発生リスクが常に高いことが判明し、最初に感染する葉先枯れ部分の除去など耕種的防除が重要と考えられた。

そこで令和4年度は、発生リスク値を参考に葉先枯れ部を摘除する実証ほを設置し、灰色かび病を軽減する適切な耕種的防除タイミングを探ることとした。7月上旬には、データに基づき葉先枯れ部の摘除を開始し、農業普及課にて2週間ごとに灰色かび病の発生調査に取り組んでいる。

併せて、環境データを元に発生リスクに応じた防除対策の徹底について、JAひだと連携しメールでの呼びかけも試行を開始した。



【灰色かび病の発生調査】

地域資源を活かした農村づくり

■水田経営 大区画整備後の大区画ほ場で大豆播種

飛騨市古川町の玄の子地区では、県営経営体育成基盤整備事業によりほ場整備工事が行われており、担い手による基幹作業の効率化を図るため、一筆50aの大区画ほ場が誕生した。

7月には、整備が完了した大区画ほ場を利用し、地元の担い手組織である(有)エイドスタッフが大豆の播種作業を行った。これまでの平均5a規模だった整備前に比べて、格段に作業効率が向上した。

農業普及課では、(有)エイドスタッフらが加入している古川町大豆生産組合を対象に研修会を開催して、大豆の栽培指導を実施しており、今後も現地巡回や現地研修会などを通じて大区画ほ場での良質大豆生産を支援する。



【大区画ほ場での播種作業】

■宿儺かぼちゃ 宿儺かぼちゃ研究会が20周年記念式典を開催

7月8日、宿儺かぼちゃ研究会が20周年記念式典を開催した。

宿儺かぼちゃは、ヘチマのような独特の形状と灰緑色で縦縞のある表皮は普通のカボチャのイメージとはかけ離れており、見た目からは想像できないようなホクホクとした食感と上品な甘みのある飛騨を代表する特産品である。

一方、栽培が難しいこともあって、生産者を中心とする宿儺かぼちゃ研究会が発足し、農業普及課は発足当初から基本栽培体系を確立するなど、研究会とともに安定生産を目指して歩んできた。

現在は約140名の会員がおり、記念式典では古田岐阜県知事をはじめ多くの来賓、生産者が集まり、20年を思い返すとともに更なる飛躍を関係者全員で誓った。



【知事を囲んで記念撮影】